

草津市立玉川小学校 学校だより

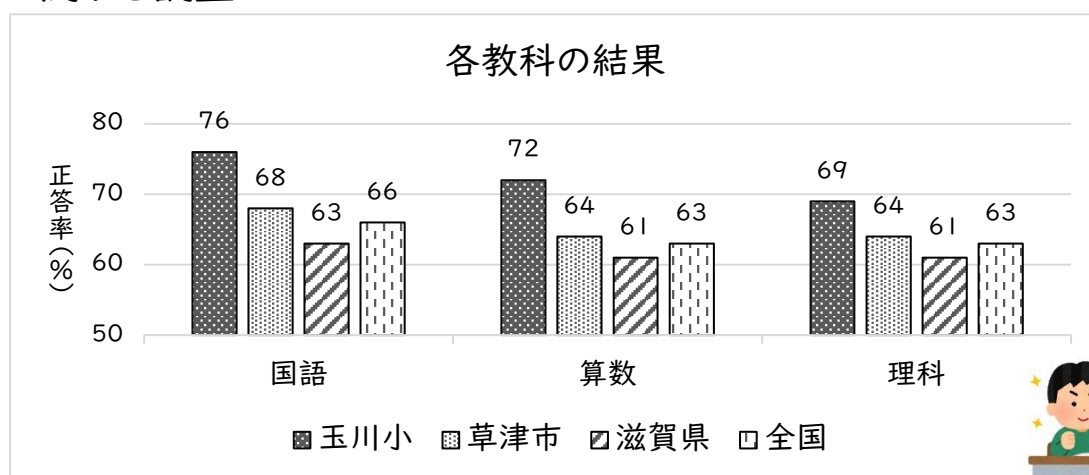
4つのき

令和4年9月8日
9月号
玉川小学校長
住吉 厚志

〒525-0059 草津市野路9丁目6番12号 TEL 563-1271 FAX 563-1306

4月17日、6年生の児童対象に実施された「令和4年度全国学力・学習状況調査」の結果データが返却されました。本校の結果についての概要とその考察についてお知らせします。

<< 教科に関する調査 >>



① 「国語」の結果

○文章読解力、登場人物の気持ちを想像する力、漢字の習得等それぞれに高い数値が出ている。

○「書き問題」の無回答率が低く、難しい問題にも取り組もうとする姿勢がみられる。

●ケアレスミスが目立つ児童がいる。また、見直しの習慣が身につけていないためかそのことに気づいていない。

② 「算数」の結果

○基本問題、学校での既習問題等正答率が高い。

○「文や式で説明する問題」の無回答率が低く、難しい問題にも取り組もうとする姿勢がみられる。

●「答えの見積もり方を考える問題」(正答率41%)、「量が変わっても割合は変わらないことを考える問題」(正答率22%)の正答率が他の問題と比べると低い。これは、生活経験上の知識や経験をもとに正答できる課題と考えられる。したがって、学んだ知識を活かして課題に取り組み、実生活に活用・応用したりすることが必要である。

③ 「理科」の結果

○問題文や資料を正しく読み、各問題に正答している児童が多い。

○理科で学習する基本的な知識が身に付いている。

●実験で使用する器具の名称を問う問題の正答率が極端に低い(正答率35%)。

●「日光が直進することを問う問題」の正答率が低い(正答率22%)。この問題は、算数同様生活経験上の知識や経験をもとに正答できる課題と考えられる。したがって、日常生活の経験と学習の結びつきが弱いと言える。

④ まとめ

各教科ともに大変高い正答率が見られました。これは、本校児童が真面目に学習に取り組んでいる成果であり、学校における反復学習や家庭での復習を通して基本的な知識を身につけ、課題解決に活かすことができていると考えています。今後も教員の丁寧な指導体制を維持し、子どもが意欲的に学ぶ姿勢を維持できるように支援するとともに、家庭学習がより充実するようご家庭との連携をさらに強化したいと考えています。

一方、日常生活の経験と学習を結びつけながら解答を導き出す問題の正答率が低いという結果が見られました。今後、学習内容が日常の場面でどのように使われているのか等に注目させ、発展的・実践的な学びにつなげる授業の工夫がより必要であると考えます。また、自分の考えや説明を表記する問題の正答率も低いことから、普段の授業で自らの考えを文章にする経験を多く積ませることに力点を置きたいと思えます。

<< 児童質問紙調査 >>

① 非常に高い数値を示したおもな項目

- ・自分にはよいところがある86.6%(国79.3%)
- ・家で自分で計画を立てて勉強している76.3%(国71.1%)
- ・1日2時間以上スマホでSNSや動画を見る22.7%(国32.5%)※数値が低いほうがよい項目

② 高い数値を示したおもな項目

- ・先生はよいところを認めてくれる90.7%(国87.1%)
- ・将来の夢や目標を持っている84.5%(国79.8%)
- ・困りごとや不安がある時、先生にいつでも相談できる70.1%(国68.1%)
- ・2時間以上自宅学習している28.2%(国25.1%)
- ・1日2時間以上ゲームをする45.3%(国50.2%)※数値が低いほうがよい項目

③ 低い数値であったおもな項目

- ・自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている81.4%(国87.2%)
- ・難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している62.9%(国72.5%)
- ・学校でタブレットを週1回以上使っている67.0%(国76.1%)
- ・学級の友だちと話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできている74.3(国80.1%)
- ・道徳の授業で学級やグループで話し合う活動をしている69.1%(国80.0%)

④ まとめ

各項目の結果から分析すると全体として以下のようなことが言えると思えます。

- 基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が身に付いている。
- 先生をはじめとするおとなへの信頼もあり、自分のことも大切にしている。
- 困難なことを解決しようとする姿勢が弱い。
- 学校の活動において、子ども同士で話し合ったり、交流する機会が少ない。
- タブレットの積極活用が不十分である。

全69項目中、全国平均より2ポイント以上上回った項目は16項目、全国平均よりも2ポイント以上下回った項目は29項目ありました。教科に関する調査で高い数値結果が出たことを考えると、児童質問紙の数値結果はやや低調と言えるかもしれません。これは、児童の自らに対する期待値の高さからくる結果とも推測できますが、反面自己肯定感の低さを表している結果とも考えられます。いずれにしても、高い目標に向かって、自信を持って進む児童の育成に努めていきたいと思えます。そのための取組として、以下の点を意識した教育活動を推進します。

◇家庭教育とのさらなる連携強化。

◇基礎知識の定着を進める学習活動の継続と経験的・発展的な学習活動の推進をはかる授業改善(タブレットの積極活用を含む)。

◇児童が自ら考える活動や話し合い活動、発表活動の機会の積極的導入。

◇児童の努力に対する丁寧で適切な評価。

